

ブドウ着色不良発生頻度予測 詳細マップ

2019年6月
農研機構

はじめに

「巨峰」等のブドウ黒色品種は、果実の着色が高温で阻害され、商品価値が著しく低下します。わが国のブドウ産地では、地球温暖化に伴い着色不良の発生が増加し、大きな問題となっています。そこで、将来、地球温暖化が進んだ場合の着色不良発生地域を予測し、詳細なマップで示しました。本マップは、ブドウ産地における生産者の栽培計画や自治体による地域気候変動適応計画の検討・策定に活用できます。

本マップの特徴

- ・本マップは 2019 年 6 月 17 日に実施された農研機構によるプレスリリース (http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/index.html) に対応して公表するものです。詳細はプレスリリースをご確認ください。
- ・凡例で示した数値は着色不良発生頻度で、1981～2000 年または 2031～2050 年の 20 年間のうち着色不良多発年が何年あるかを算定し、発生頻度としています。
- ・2031～2050 年のマップは日本の陸域の全メッシュの気温を平均すると 1981～2000 年と比べて 1.7℃の気温上昇（温室効果ガス排出シナリオ：RCP4.5）を見込んでいます。
- ・都道府県または市町村レベルで参照する場合は 400～1600%程度に拡大表示させてください。
- ・地域気候変動適応計画の策定にご活用いただける場合はご一報いただければ幸いです。また、他の作型（トンネル、雨除け栽培）、他の品種（ピオーネ、涼香）のマップも開発中です。下記問い合わせ先までご相談ください。
- ・本資料の掲載内容については、無断で転載、複製、放送、販売などに利用することはできません。

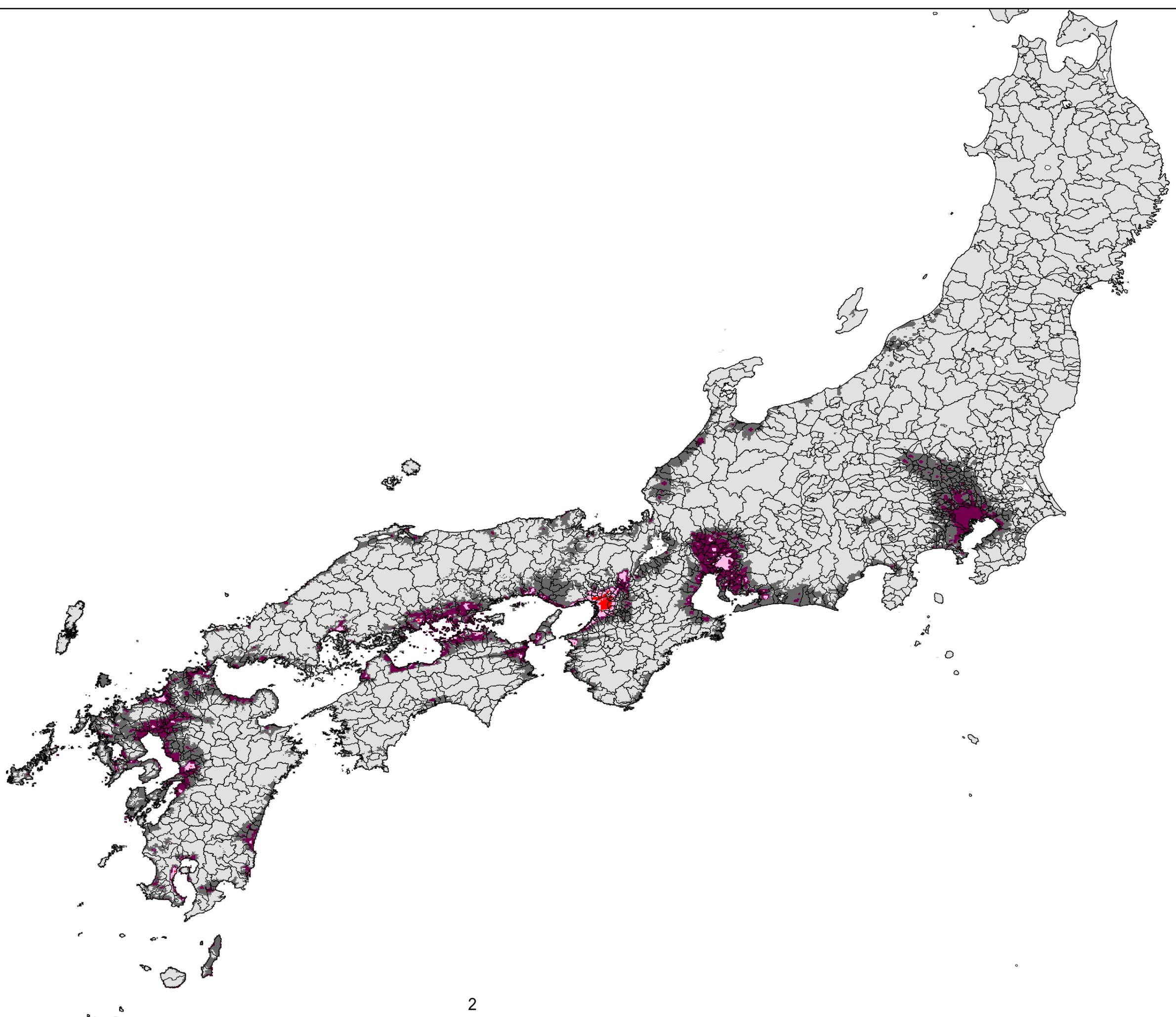
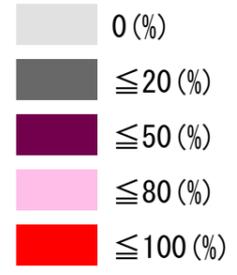
【問い合わせ先】 農研機構 果樹茶業研究部門 園地環境ユニット

〒305-8605 つくば市藤本 2-1 電話：029-838-6416（代）

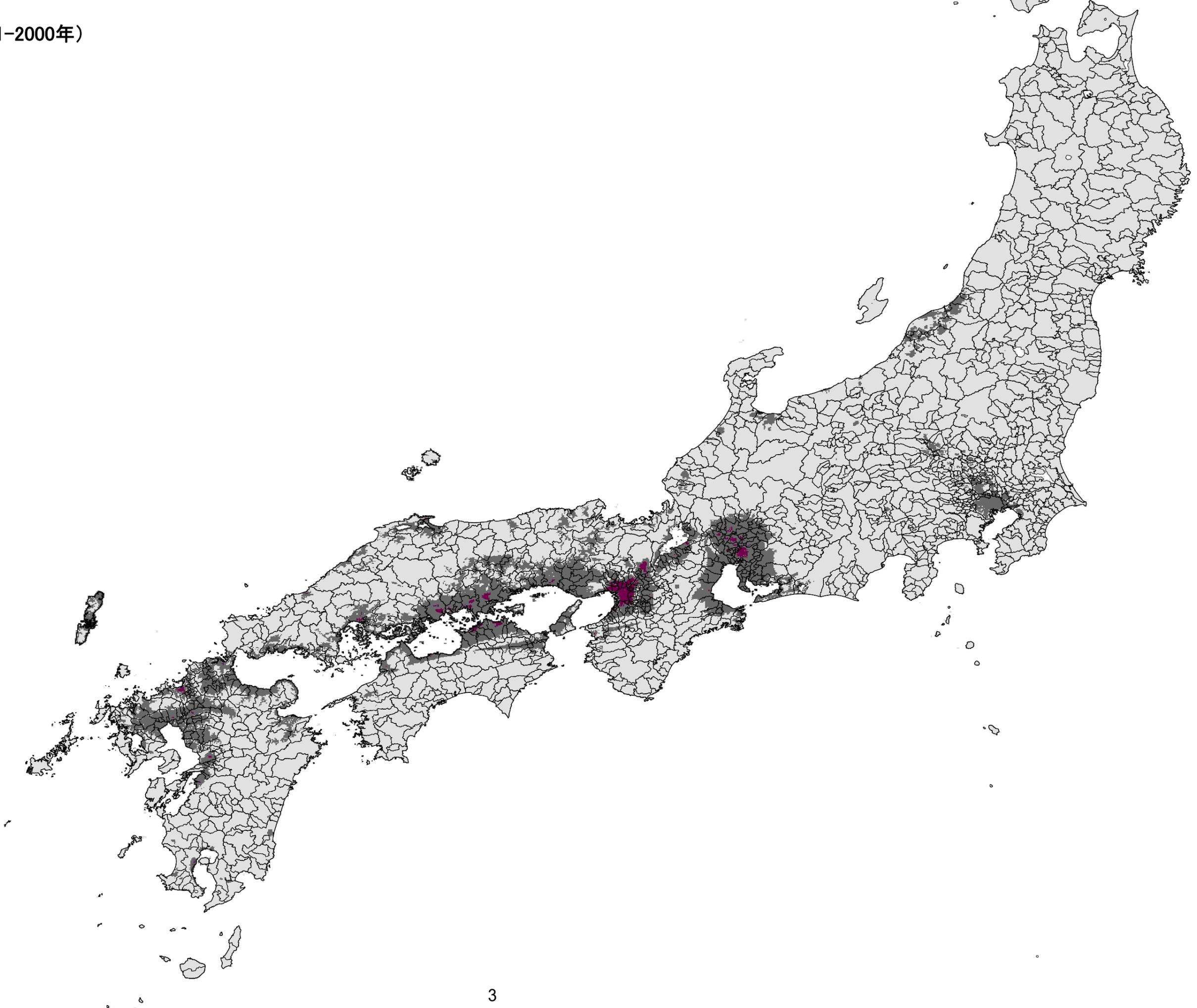
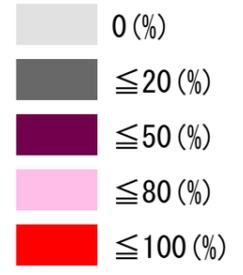
目 次

品種：巨峰、作型：露地、時期：1981～2000 年	2
品種：巨峰、作型：無加温ハウス、時期：1981～2000 年	3
品種：巨峰、作型：露地、時期：2031～2050 年	4
品種：巨峰、作型：無加温ハウス、時期：2031～2050 年	5
品種：グロースクローネ、作型：露地、時期：1981～2000 年	6
品種：グロースクローネ、作型：露地、時期：2031～2050 年	7

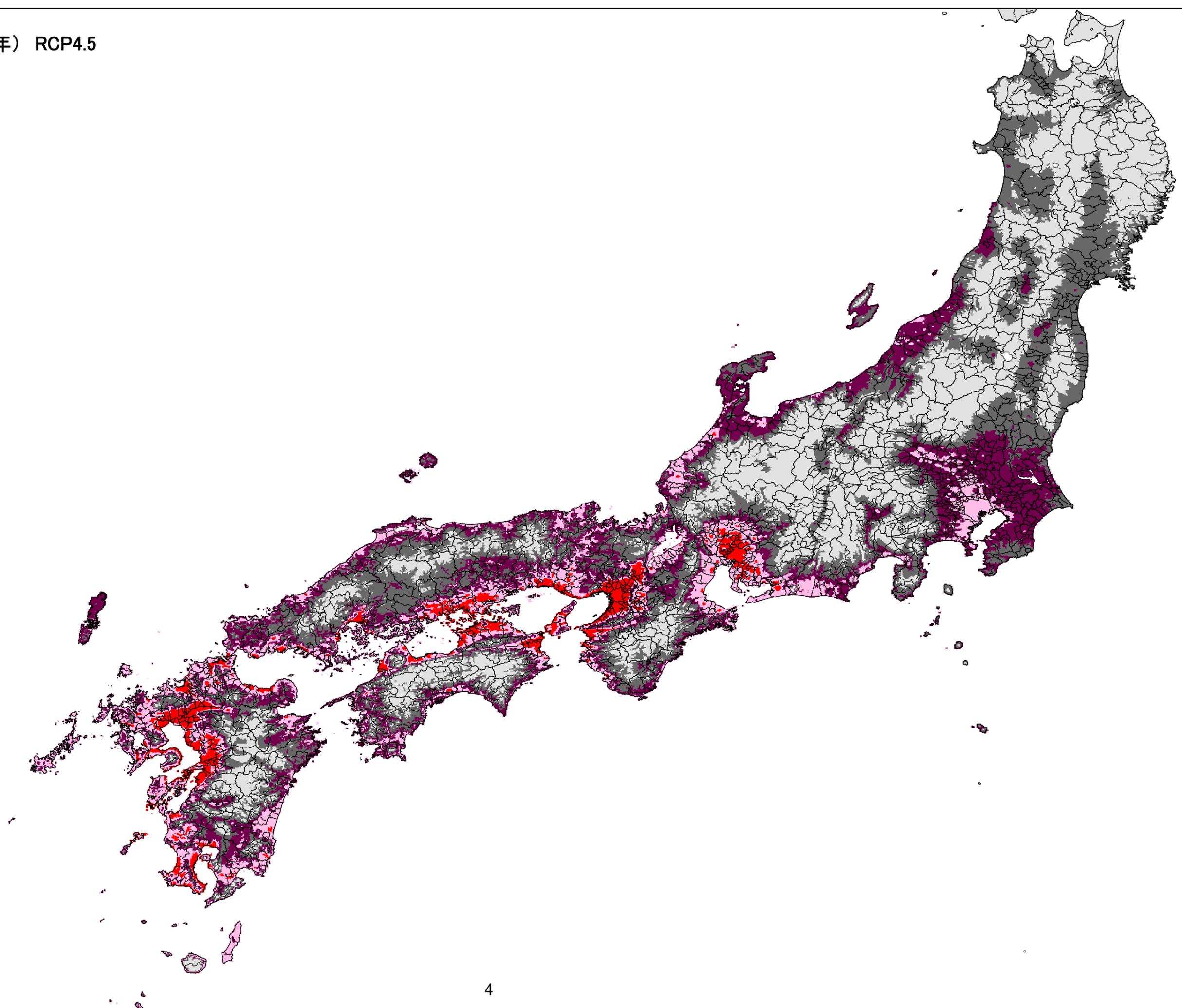
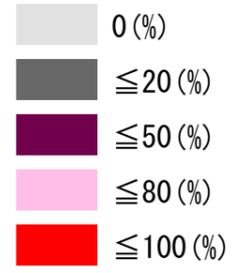
巨峰 露地(1981-2000年)



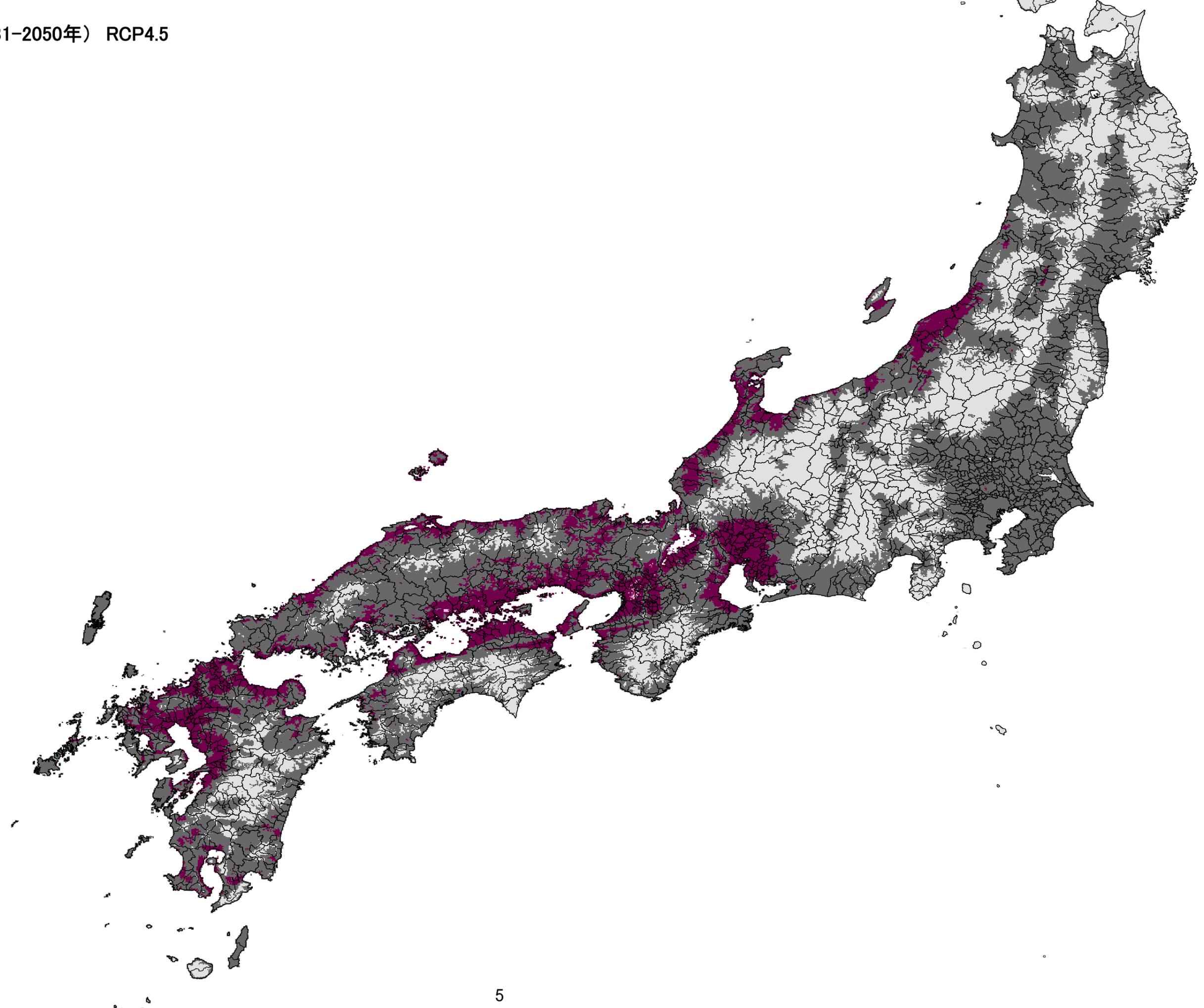
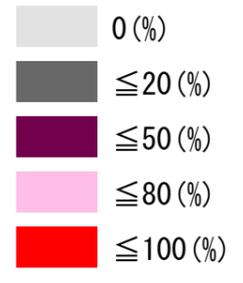
巨峰 無加温ハウス(1981-2000年)



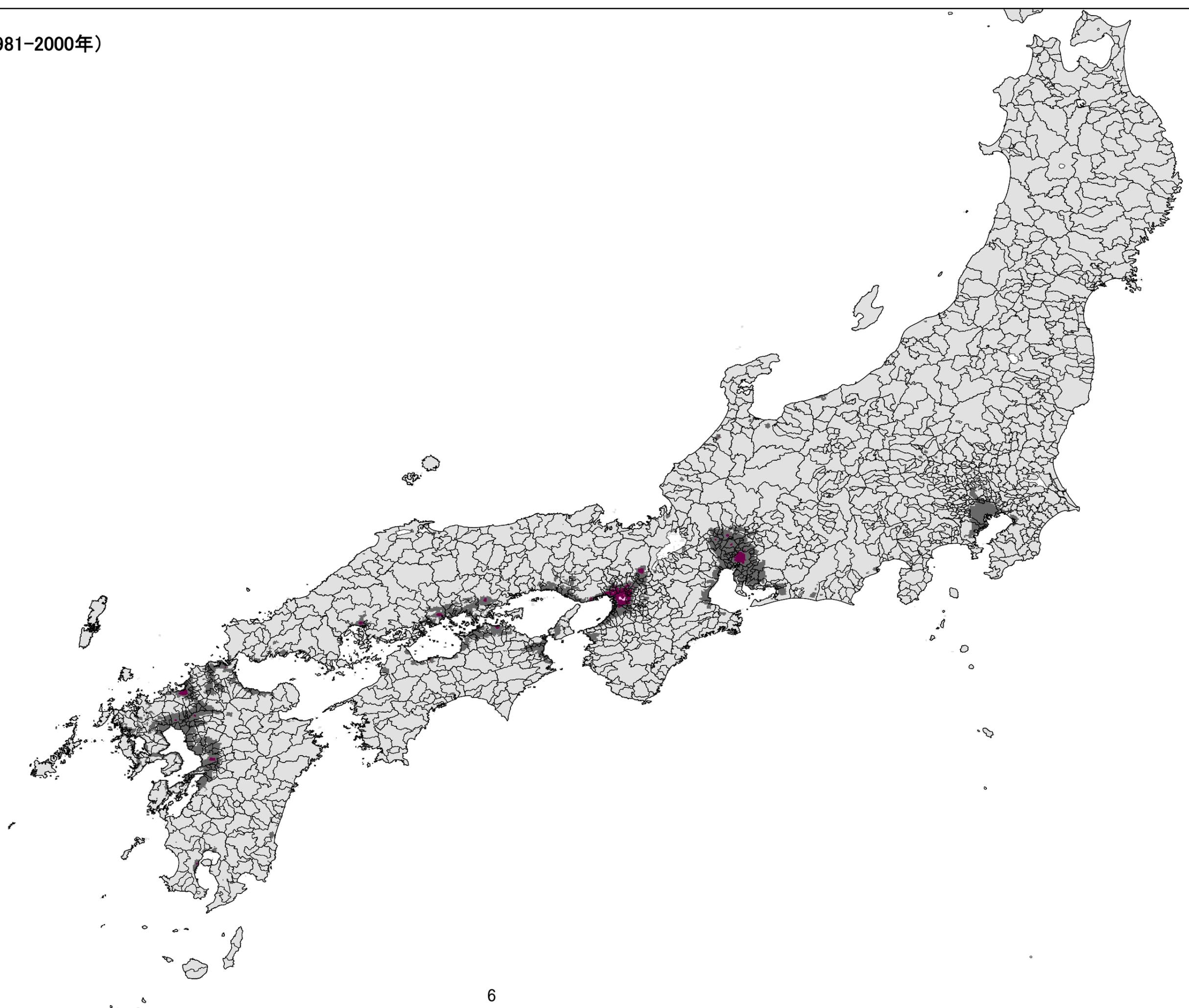
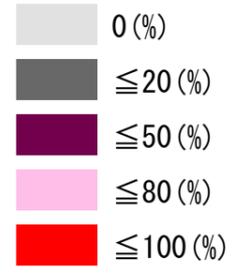
巨峰 露地(2031-2050年) RCP4.5



巨峰 無加温ハウス(2031-2050年) RCP4.5



グロースクローネ 露地(1981-2000年)



グロースクローネ 露地(2031-2050年) RCP4.5

